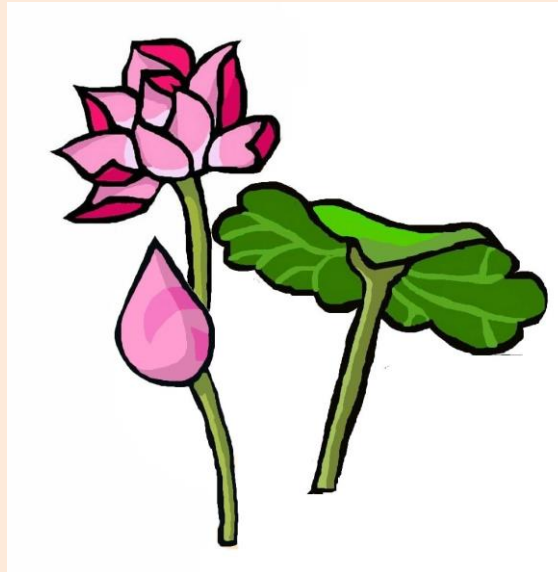


境内の花



同朋会コーナー 住職法話抜粋『法名について』

五月同朋会より

「名」という漢字は「夕」に「口」と書きます。夕方暗くなってきて顔が見えないとき口にする「名告り（なのり）」なのだと言われます。つまり「名」とは「自分が何者であるかを表明していく」ものだと言えます。

さて、真宗では「法名」をつけます。他の宗派が戒律を守る「戒名」であるのに対して真宗の「法名」は何を意味するのでしょうか。「法」とはお釈迦様によって説かれた「真実の教え」のことです。つまり「法名」とは「仏弟子になってお釈迦様の教えである真実の教えを生きる者である」という表明だと言えます。そこで仏弟子となった証に、お釈迦様の「釈」の一字（女性は「釈尼」）をいただき漢字二文字の法名をつけるのです。
前任職法話抜粋『真宗の教え「覚」の宗教』

日本では仏教が見えにくくなっています。これを整理すると二つの系譜があるとと言えます。一つは「霊の系譜」です。これは人知を超えた存在に除災招福を願って祈ること。この場合、自分は何も変わらず自分以外の力で自分の周りの状況を変えてもらおうという身勝手な願いが見え隠れします。

そしてもう一つの系譜は「覚の系譜」です。これは外に向けていた目を自分に向けてみると苦しみ之源は自分の中にあった、と自覚していくことです。今ある私を受けとめ、ありのままを受け入れること。そして、自分勝手な自我いっばいの私の中に本当の私、真実の自己があることに気づき苦しさを越えていこうとする自覚の道、これが真宗の教えなのです。

六月の同朋会

日 六 月 八 日 (第 二 土 曜)
時 十 三 時 ～ 十 六 時
場 所 徳 泉 寺 同 朋 会 館
持 ち 物 数 珠 勤 行 本
茶 菓 代 五 〇 〇 円
どなたでも参加できます

『徳泉寺報』後記
「平成」から「令和」へ元号が変わりました。なにかが変わった、というよりも昨日と今日と明日とが続いていく毎日である、と改めて感じられた気がします。今日の営みを明日の自分につないでいきたいものです。